

## 8月度 食トコ・地球環境 合同定例会報告

(食トコ：食を通して所沢を知る会、地球環境：地球環境に学ぶ)

地球環境に学ぶ 中島峯生、記

まえがき

8月度定例会を食トコの場にて合同定例会を開催した。地球環境より広場の環境問題シリーズの「気象変動とエネルギー」「プラゴミによる海の汚染の恐怖」の概要説明と「環境行動宣言 2021」地球環境改善チェックシートの説明を主体に報告した後、両サークルに関わる事項について質疑応答をし、相互に有意義な定例会が出来ました。その模様を報告致します。

## 1. 開催日時場所

日 時 2021年8月17日(火) 10:00~12:00

場 所 男女共同参画推進センターふらっと 会議室

参加者 20名(食トコ12名、地球環境8名)

## 2. 参考資料

(1)「広場」2020年10月号環境問題シリーズ第1章「気象変動とエネルギー問題」

(2)「広場」2021年4月号 同上 第7章「プラゴミによる海の汚染の恐怖」

(3)「広場」2021年6月号 同上 第9章「環境行動宣言2021」地球環境改善チェックシート

## 3. 合同定例会の様様





#### 4. 主な質疑（地球環境8月度記録等より）

①温暖化対策は大切。斎藤幸平「人新世の資本論」を読み、脱成長が今後の課題と思う。

②太陽光パネルで山林等の自然破壊も生じる。また将来、廃棄パネルの処理が課題。

A：大規模なメガソーラーによる山林破壊が問題を引き起こしている。規制する法律が整備されていない

のが原因である。自治体条例等で建設を未然に阻止することが必要。屋根上設置やソーラーシェアリング発電は環境に適応している。

ソーラーパネルは、アルミやシリコン結晶できており、100%材料再生ができるので、廃棄物処理の心配はない。(中原)

③太陽光パネルは、保守や屋根の傷み、台風時の耐久性等の心配もあり。

A: 大規模なメガソーラーはそれなりに保守が必要だが、小規模なものはほとんど保守が不要。パネルは軽量化されているが、古い屋根に設置する場合は慎重に。台風で壊れないように強度設計されていて、実際に壊れた例は少ない。(中原)

④耕作放棄地等を利用した営農型ソーラーシェア(パネルの下で作物生産)が有効。

A: 所沢市としてエネルギーの地産地消を実現するには、市内全面積の20%を占める農地にソーラーシェアリング発電方式を広めることが大変有効。(中原)

⑤日本は食料を輸入依存しているが、将来の食糧確保が心配。中国は食料自給率(特に小麦、大豆)を高める政策を取っている。

⑥食べ残しは問題。買物を週一程度に減らし無駄買いの抑制が必要。

⑦生ごみは燃えにくい。コンポスト等で堆肥化すると環境に優しい。市の補助金も出る。

⑧中国の習主席は食べ残し禁止を宣言。日本より食糧問題の危機意識が高い。

⑨CO<sub>2</sub>排出権取引(カーボンプライシング)は南北間調整に有効で、地球全体で考えるとCO<sub>2</sub>削減に有効な取組み。

⑩排出量取引は、排出量をやり取りするだけで、実際の削減につながらないのではないかと?

A: 排出量取引は、CO<sub>2</sub>の排出量を社会全体で削減することを狙いとしたもので、国連などで(京都議定書のように)国や企業のCO<sub>2</sub>排出量を制限し(削減目標を課し)、排出量を抑える義務を負わせるところがミソです。自国や自社のCO<sub>2</sub>排出割当枠を超えてしまう場合には、排出割当枠に余裕のある国や企業から枠(これをクレジットといいます)を購入することができる仕組みです。CO<sub>2</sub>の排出量に価格を付けるカーボンプライシングの方法の1つです。(大江)

⑪米国の牛はホルモン剤を使うため、欧州・露・中国は輸入規制している。逆に日本は関税下げて輸入促進。日本の有害物質規制は甘い。これら問題を改善するには選挙しかない。

⑫賞味期限(美味しく食べられる)と消費期限(安全に食べられる)の違いを良く理解し買物すること。

⑬チェックシートは実行可能な項目と不可能な項目あり、点数の重み付けが必要では。

⑭太陽光パネルを設置し、電気代が少し助かっている。

⑮グリーンピープルズパワーの再エネ使用率は98%。電話一本で切換え可能。

以上